

芳賀赤十字病院 臨床研修ガイド



芳賀赤十字病院の概要

設 立 母 体：日本赤十字社

設立年月日：昭和24年7月1日

所 在 地：栃木県真岡市中郷271

病 院 長：本多 正徳（放射線科）

病 床 数：364床（うち感染病床4床）

標榜科

内科、脳神経内科、リウマチ科、腎臓内科、呼吸器内科、アレルギー科、消化器内科、循環器内科、血液内科、小児科、外科、小児外科、形成外科、乳腺科、心臓血管外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、放射線科、麻酔科、救急科、精神科、歯科、歯科口腔外科
(全30科)

患者数等DATA （令和3年度実績）

一日平均入院患者数：298.3名

一日平均外来患者数：590.0名

救急患者総数：7,589名

救急車搬送件数：3,574件

平均在院日数：13.2日

分娩件数：270件

職員数と医師数

総職員数：717名

（令和4年4月1日現在）

常勤医師数：71名

（歯科医師を含む）

指導医数：経験年数7年以上 45名

（内指導医養成講習会修了者 25名）

医師の主な出身大学

主な出身大学：自治医科大、獨協医科大
旭川医科大、札幌医科大、弘前大、岩手医科大
秋田大、山形大、新潟大、福島県立医科大、群馬大
筑波大、日本大、埼玉医科大、日本医科大、昭和大
東京大、東京医科大、北里大、東京慈恵会医科大
防衛医科大、東京医科歯科大、信州大、山梨医科大
浜松医科大、藤田保健衛生大、愛知医科大、金沢大
三重大、岡山大、島根大、鳥取大、富山大、広島大
香川大、徳島大、高知大、産業医科大、佐賀大
大分大、宮崎大、鹿児島大、琉球大など

医療機関指定状況等

救急告示病院（二次救急医療機関）

病院群輪番救急病院

災害拠点病院※DMAT指定病院

地域周産期母子医療センター

エイズ診療拠点病院、へき地医療拠点病院

栃木県脳卒中地域拠点医療機関、

肝疾患専門医療機関、小児救急拠点病院

D P C対象病院、地域医療支援病院

栃木県がん治療中核病院

第二種感染症指定医療機関、地域がん診療病院

地域に信頼される病院であるために

病院理念

「地域に貢献する病院」

基本方針

- 1 患者中心の医療
- 2 安全で質の高い医療
- 3 赤十字の使命に基づいた社会貢献
- 4 救急医療の充実
- 5 チーム医療の推進
- 6 職員満足度の向上
- 7 健全経営

医療圏と当院の特徴

- ・ 栃木県真岡市を中心とする、芳賀郡市1市4町15万人の住民の、唯一で最大の医療機関。隣県の茨城県からの患者も多く受入れている。

一次および三次医療機関との連携が良く、月平均350件を超える救急車搬送患者を受入れる急性期病院

**(医師一人当たりの受入数
県内1位)**

- ・ 特に、ハイリスク分娩・低体重児等の周産期にかかる比較的高度な医療を提供している**周産期医療機関**



芳賀赤十字病院の 初期臨床研修の目標

医師である前に一人の人間であることを意識しながら、医師としての人格・技術を涵養し、将来の専門性にかかわらず、地域に暮らす人々の医療ニーズに応えながら、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身につけ、さらに、患者の意思を尊重し安全な医療が提供できる、全人的な診療能力を持った医師を養成する。

指導責任者と連携施設（病院）

研修管理委員長　：村上 善昭（副院長 内科）

プログラム責任者：渡辺 尚（副院長 産婦人科）

連携施設（病院）

- ・ 精神科：自治医科大学附属病院、市中病院
- ・ 臨床病理検討会：自治医科大学附属病院
- ・ 地域医療：県内各保健所、地域の診療所

芳賀赤十字訪問看護ステーション

プログラムの特徴

全診療科をローテするプログラムが基本であるが、
研修医の個々の希望に合わせプログラムを組み替えることが可能！

少人数研修のためマンツーマンで指導が受けられる！

ローテート研修ですべてのグループに指導医講習会
修了の指導医を配置し**病院全スタッフ（医師・コメディカル・事務）**がサポート

それぞれの科の**専門医**から指導を受けます

2年間の研修スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オリエンテーション	循環器内科	外科		麻酔科	救急科	血液内科	腎臓内科	神経内科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	産婦人科	外科系	外科系	精神科	外科系	地域医療	地域医療	行政	選択	選択	選択		
オリエンテーション	血液内科	消化器内科	腎臓内科	外科	麻酔科	救急科	循環器内科	外科系	呼吸器内科	神経内科	外科系	小児科	産婦人科	外科系	外科系	地域医療	精神科	地域医療	行政	選択	選択	選択		
オリエンテーション	腎臓内科	血液内科	循環器内科	呼吸器内科	神経内科	外科	麻酔科	救急科	外科系	消化器内科	外科系	精神科	小児科	産婦人科	外科系	地域医療	地域医療	行政	選択	選択	選択			
オリエンテーション	呼吸器内科	神経内科	血液内科	循環器内科	消化器内科	腎臓内科	選択：外科系	外科	麻酔科	救急科	精神科	外科系	外科系	地域医療	小児科	産婦人科	地域医療	行政	選択	選択	選択			
オリエンテーション	神経内科	循環器内科	救急科	麻酔科	消化器内科	腎臓内科	血液内科	呼吸器内科	外科	産婦人科	外科系	外科系	精神科	地域医療	小児科	外科系	行政	選択	選択	選択				

※研修の比重をどこの症例群におくか、指導スタッフと研修医とで決める。

※研修医のニーズに柔軟に対応するために、ローテーションを多様化。

芳賀赤十字病院の初期研修のポイント

県東医療圏で唯一の2次医療機関であるため、数多くの幅広い症例を経験できる。

診療科間の連携が良いため、たとえば内科で研修中にも外科や整形外科の指導が受けられる。

1次医療機関および3次医療機関との連携が良いため、患者さんを断片的ではなくトータルに診ることができる。

すなわち、専門的な知識や技術を吸収しつつ、多くの患者さんをいろいろな視点から総合的に診療することが可能。

指導医からのメッセージ

当院での研修の特長

- ① 診療科間の連携がよく、**診療科の垣根を越えた指導を受けられる**
- ② 一次医療機関、三次医療機関との連携がとれているため**患者さんをトータルに診ることができる**
- ③ 医師及びメディカルスタッフとの協力体制が整備されており、**医師として社会人として皆さんをサポートできる**
(臨床研修管理委員長

副院長兼内科統括部長兼総合内科部長 村上 善昭)

指導医からのメッセージ

- ① できるだけ多くのハイリスク妊産婦を受け入れ、またローリスク外来も行っており、**正常妊娠からハイリスク妊娠の管理を幅広く経験できる**
- ② 手術研修では、子宮筋腫などの良性婦人科疾患だけではなく **異所性妊娠や卵巣腫瘍茎捻転などの緊急手術にも参加できる**
- ③ 一般病院ならではの多種多様な訴えを持つ患者の相手をする事で**大学病院ではできない経験ができる**
(プログラム責任者

副院長兼第一産婦人科部長 渡辺 尚)

指導医からのメッセージ

- ① 外科系標榜科が多くあり、全身(開心術心以外)の外科治療に対応している
- ② 月に300～400件も救急搬送があるため、外傷・急性腹症産婦人科系救急等の緊急手術が多い
- ③ 研修医は検査(超音波、内視鏡等)、手技(CVカテ、各種穿刺等)、手術(外傷、開閉腹、ヘルニア、虫垂炎、胆嚢摘出、骨折・抜釘手術、小開頭等)、麻酔手技(気管内挿管、腰椎麻酔等)を術者や第一助手で経験できる
- ④ 多数の症例に適度な人数の研修医で多くの手技が経験でき「2ヶ月間で気管内挿管100例」といった強者までいる

(臨床研修管理副委員長

院長補佐兼手術部長兼第一外科部長 俵藤 正信)

研修医からのメッセージ

当院で研修を始めて・・・

- ① 各診療科が充実しており、**ほぼ全ての科をローテーションできる**
 - ② 豊富な症例のもと、先生方の熱心な指導のおかげで各科で中身の濃い研修ができている
 - ③ 患者数に対して研修医が少ないため、安全に配慮しながらも数多くの経験をさせてもらっている
 - ④ 先生方やコメディカルの方々、先輩や事務の方々、地域の方々に支えられてよい研修ができている
- （平成28年度採用研修医）

研修医からのメッセージ

当院の研修の特長

- ① 大学病院からいらっしゃる熱意と指導力の溢れる先生からマンツーマンで指導を受けることができる。
- ② 芳賀地区の中核病院であり、診療科も豊富であり症例に困ることなく、大学病院と市中病院のそれぞれいいとこ取りの研修をすることができる。
- ③ 当院は院長先生や指導医の先生方はもちろんのこと、看護師さんや検査技師さん、事務職員さんまで全てのスタッフの方が研修医を大切にしてくれて、育てようと一生懸命になっている。

（平成29年度採用研修医）

研修医からのメッセージ

当院の研修の特長

①手技を経験できる機会が多い

手術だけではなく、心カテ検査、内視鏡検査、超音波検査、気管挿管、骨髄穿刺、腰椎穿刺・・・などなど数々の手技を経験できるので、手技を一通りやってみてから専攻の科を決めたいというような方には強くおすすめします

②たとえ研修の開始後であっても、希望がでてくるとそれに見合ったプログラムやローテーションを組み直してもらえる

研修医が少人数であることに加えて、自治医科大学病院や芳賀地区の他の医療機関とも連携しているため幅広い選択肢の中から、個々の希望に沿った研修をフレキシブルに組んでもらえるのです。

◎当初は、研修医の同期が大学病院と比べて少なく心配 だったのですが、コメディカルの同期も多く、心細さを感じることはありませんでした。ぜひ初期研修に芳賀赤十字病院を選んでいただければと思います。

（平成30年度採用研修医）

処遇等

身分：研修医（常勤嘱託職員）

募集定員：5名

研修手当：1年次400,000円（税込み）

2年次450,000円（税込み）

賞与：有

当直：月平均4回程度

休暇：有給休暇1年次24日、2年次24日

（夏期休暇、その他の休暇は、

院内規程により付与する）

社会保険等：健康保険・雇用保険・厚生年金・年金基金等加入

宿舎：無 ただし、住居手当あり（上限28,500円）

研修環境

研修医専用室：2室

デスク・電子カルテ端末：個々に貸与されます。

病気が見えるシリーズ：電子版使用可能

学会・研究会への参加：可（参加費用支給有）

健康管理：健康診断年1回実施

メンタルヘルスサポートシステムを導入しています。



プライマリケア勉強会

- ・開催日時

第1週、第3週 水曜日
午前7時30分～（30分程度）

- ・講師

各診療科医師・コメディカル
看護師も講師を担当

- ・対象者

研修医、医師、コメディカルを
始めとする医療従事者

医療技術系の学生、その他興
味のある地域の方など

☆2年間で約40テーマが学べ
ます。



～ 主なテーマ ～

胸痛の診断と治療

心肺蘇生法 G2010

腹腔鏡手術について part2

食物アレルギー家、学校でどう対応

ロコモティブシンドローム

妊娠と薬

令和3年度プライマリア勉強会テーマ

月	テーマ	講師
5月	禁煙外来について	慢性呼吸器疾患看護認定看護師
6月	除細動器について	臨床工学技術課
6月	造血幹細胞移植	血液内科部長
7月	気管支鏡-最新トピックス-	呼吸器科内科医師
7月	しびれのみかた	整形外科医師
8月	虫垂炎	外科医師
9月	月経困難症 Uptodate	産婦人科医師
10月	カテーテル治療について	循環器内科医師
11月	妊産婦の画像検査と安全性	産婦人科医師
12月	デンタルプラントってどんなもの？	口腔外科副部長
1月	救急×緩和とは ～「はじめまして、さようなら」 悲嘆の死を避けるために～	救急科医師
2月	院内コンサル患者に対する眼科検査 だれが？どんな検査をしているの？	視能訓練課

関連学会認定状況

○日本内科学会教育関連病院

- 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本腎臓学会研修施設
- 日本透析医学会教育関連施設
- 日本感染症学会研修施設

関連学会認定状況

- 日本小児科学会小児科専門医制度研修施設
 - ・日本小児循環器専門医修練施設群認定施設
 - ・日本アレルギー学会専門医準教育施設
- 日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
 - ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度母体胎児専門医指定研修施設
(指定研修施設)
- 日本臨衛生検査技師会精度保証施設

関連学会認定状況

- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
 - ・日本消化器外科学会専門医修練施設
 - ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
 - ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
 - ・マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設

関連学会認定状況

- 日本泌尿器科学会専門医教育関連施設
- 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- 日本脳卒中学会認定研修教育病院
- 日本眼科学会研修施設
- 日本医学放射線学会専門医修練機関
- 日本口腔外科学会関連研修施設
 - ・日本小児口腔外科学会研修施設

研修医修了式

令和3年度採用研修医 修了式



研修医1年目・2年目、そして、令和
4年度採用研修医も参加してくれ
ました。



研修の様子



神経内科研修



耳鼻咽喉科研修



消化器内科研修



麻酔科研修

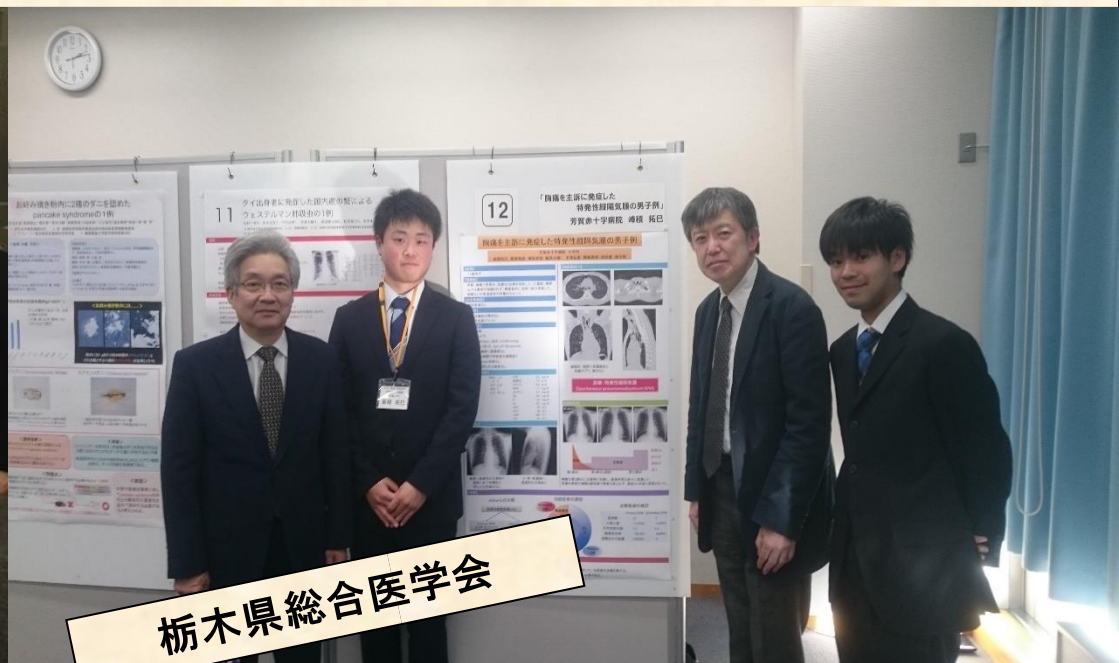
研修の様子



研修の様子



日赤医学会



栃木県総合医学会

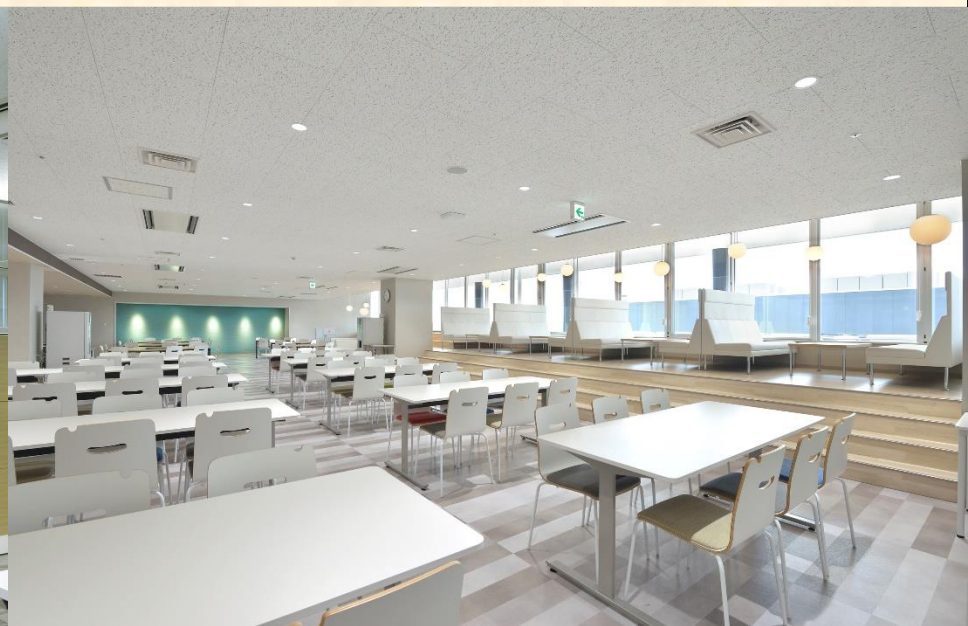


病診連携懇話会



修了式での発表

病院の様子





赤十字精神(人道・博愛)に基づく **Policy.**

+ 赤十字の使命に基づいた社会貢献

災害救護 | 赤十字の活動

災害救護活動は、赤十字の人道的使命感に基づいて行われます。自然災害や人的災害など大規模災害発生時に、医療救護班を現地に派遣できるよう備えています。災害が発生した際に、いつでも全国へ出動できるよう、常備救護班を3個班

編成しています。

また、日頃から赤十字救護員としての質の向上に努めているほか、赤十字事業の推進者として赤十字各種講習会を開催し、普及にも努めています。

▶ 近年の災害活動実績

- **東日本大震災(平成23年3月)**
震災直後より、日赤救護班及びDMATを被災地(東北地方)へ派遣。
約半年間、日赤救護班を8個班派遣したほか、石巻赤十字病院の業務支援に看護師・薬剤師を派遣した。
- **関東・東北豪雨災害(平成27年9月)**
茨城県常総市へ救護班を派遣。
- **熊本地震災害(平成28年4月)**
熊本県阿蘇郡西原村へ、救護班を派遣。



関東・東北豪雨災害(平成27年)



熊本地震(平成28年)

災害拠点病院・DMAT指定病院

熊本県における災害拠点病院に指定されており、災害発生時には関係機関と協働し、積極的に医療救護活動にあたります。

県内外の地震、台風等の自然災害や、航空機、列車事故等の大規模な事故等が発

生した場合に、熊本県知事の要請により、被災した地域へDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣し、被災地の医療支援を行います。

医師1名・看護師2名・調整員2名で構成するチームを2チーム編成。



病院見学等問い合わせ先

芳賀赤十字病院 人事課

〒321-4308

栃木県真岡市中郷271

TEL:0285-82-2195

FAX:0285-84-3332

E-mail : jinji@haga.jrc.or.jp